

令和 4 年度第 2 回小牧市立図書館協議会 会議録

日時 令和 5 年 2 月 1 日(水) 午前 10 時～午前 11 時 30 分

場所 小牧市中央図書館イベントスペース

出席委員 13 名

会長 家禰 淳一 (愛知大学文学部人文社会学科教授)
副会長 伊藤 純子 (小・中学校校長会図書担当・陶小学校長)
安藤 亜矢 (小牧市小中学校 PTA 連絡協議会代表)
坂廻辺 範子 (小牧市社会教育委員)
林 由紀宏 (こまき市民文化財団事務局長)
野田 江美子 (図書館ボランティア代表)
鈴木 貴子 (指導保育士)
早川 渡 (愛知文教大学図書館長)
長江 美津子 (名古屋経済大学人間生活科学部教育保育学科特任教授)
山田 好広 (小牧市社会福祉協議会ボランティアセンター所長)
高島 昇 (公募委員)
舟橋 精一 (公募委員)
河村 直子 (公募委員)

事務局 中川 宣芳 教育長
石川 徹 教育部長
伊藤 京子 教育部次長
矢本 博士 図書館長
山田 久 図書館司書専任担当主幹
花里 千賀子 図書館図書係長
赤尾 淳 図書館図書係主任

傍聴者 0 名

配布資料 資料 1 点検評価シート(令和 4 年度実績)(案)
資料 2 令和 5 年度教育委員会基本方針(案)
資料 3 令和 4 年度第 1 回図書館協議会における提案事項について

会議内容

■開会

赤尾主任 ただいまより令和4年度第2回小牧市立図書館協議会を開催いたします。進行をつとめます図書館の赤尾と申します。どうぞよろしくお願いいたします。この会議は、小牧市審議会等の会議の公開に関する指針に基づき、会議を公開しています。本日の出席者は12名※であり、委員の過半数の出席により会議が成立していることを報告いたします。なお、傍聴者は0名です。会の開催にあたり、中川教育長よりご挨拶を申し上げます。

※この時点で不在だった委員1名については会議の途中から出席し、全員の出席となった。

中川教育長 皆様おはようございます。教育長の中川でございます。令和4年度第2回小牧市立図書館協議会の開催にあたりまして、委員の皆様には大変ご多忙の中ご出席いただき本当にありがとうございます。皆様方には日頃から図書館運営に格別のご理解ご協力を賜っているところでございます。重ねて御礼を申し上げます。この中央図書館につきましては、令和3年3月末の開館から間もなく2周年を迎えます。開館以来、コロナ禍の中で運営が大変厳しい状況で今日を迎えているところです。本市におきましては、行事等については感染対策を徹底しながら基本的にコロナ前にすべて戻す形で実施していきたいと考えており、昨年8月に3年ぶりに開催した令和夏まつりにおいては、図書館も会場のひとつとして活用いただき、多くの方にご来場いただきました。また、読み聞かせボランティアの皆様によるおはなし会につきましても、少しずつ参加者が戻ってきているということを伺っております。本日の議題は「小牧市教育振興基本計画に係る令和4年度実績点検評価について」でございます。本市における教育施策の基本となる本計画について、毎年度その達成状況や課題等を確認するために点検・評価を行っているものであり、今後の取組の方向性を定める重要な評価でございます。限られた時間ではございますが、本日はよろしくお願いいたします。

赤尾主任 ありがとうございます。続きまして、次第2 議事に入ります。これより進行は、家禰会長にお願いいたします。

■議事

家禰会長 それでは議事1 について事務局より説明をお願いいたします。

山田主幹 主幹の山田と申します。それでは、議事1 の小牧市教育振興基本計画に係る令和4年度実績点検評価について、ご説明をさせていただきます。資料1 をご覧ください。まず、あらためまして、本日委員の皆様にご審議いただく内容についてご説明いたします。本年度の教育委員会基本方針の中で図書館の重点施策として位置付けられた施策であります「レファレンスサービスの充実」につきまして、本年度現在までの「達成状況」、「課題」、「今後の取組の方向性」について今後、評価委員会の点検及び評価を受ける前に、図書館協議会のご意見をいただく必要があるため議題と

させていただいているものであります。それでは、順に説明をさせていただきます。まず、「具体的な取組」は、「基本目標 5 豊かな人生を支える、生涯学べるまちづくり」、施策 23 の「レファレンスサービスの充実」です。次に「内容」は「市民の日常生活や趣味、仕事に関する様々な課題を解決するため、適切な資料や情報の提供に努めます。調べものに役立つデータベースの提供や、メールレファレンスの活用など、レファレンスサービスを充実します。」であります。次に「達成状況」でございますが、この達成状況の欄につきましては、本年度終了後に、最終的な数値に置き換えて報告することになりますが、本日は年度途中の暫定値を基にご意見をいただこうとするものです。

「達成状況」の内容としましては、まず、レファレンス件数としましてはトータルとして昨年度より増加する見込みです。実績は表をご覧ください。令和 3 年 3 月に開館後、令和 2 年度の 4,320 件から令和 3 年度は大きく増加し、14,002 件で、そのうちメールレファレンスは 35 件でした。令和 4 年度は 12 月末現在で 10,982 件で、そのうちメールレファレンスは 15 件です。この状況から昨年度よりも増加する見込みです。次に、今年度からレファレンスに関する取組みとして 2 つ開始しました。1 つ目は、利用者が自分の調べたいテーマに関する資料や情報にたどり着くための調べ方を案内するリーフレット、いわゆるパスファインダーを作成し、図書館 HP にも掲載したところです。本年度の作成実績は計 6 件で、今後も順次作成していく予定です。2 つ目は、レファレンスやデータベースの活用方法をわかりやすく紹介する出前講座を開催するようにしたものであります。実績は、12 月末時点で 4 回です。次に「課題」についてですが、「レファレンス件数が増加傾向にある中、引き続き利用者に対する迅速な対応が求められる一方で、職員の負担軽減に対する業務の効率化が必要である。」としました。そのための「今後の取組の方向性」として、「利用者自らがレファレンス事例を検索し、関連本の調査や予約ができるシステムを導入し、順次、レファレンス事例の蓄積を進めます。」としました。今年度、取組を開始しましたパスファインダーの作成や出前講座の開催につきましても利用者自身で調べものにたどり着くようにするための取組ですが、新たにレファレンス事例を蓄積し、利用者自らが検索できるようにしようとするものです。来年度からのレファレンス事例につきましては、全てこのシステム上に登録していくとともに、過去のレファレンス事例のうち、特に重要なものから順に登録を進め、順次、蓄積件数を増やしていく予定であります。以上で説明とさせていただきます。ご審議よろしく申し上げます。

家禰会長 ありがとうございました。今回の件は先ほど教育長からお話がありましたように、小牧市教育振興基本計画の内、図書館の重点施策について忌憚のない評価のご意見をいただければというところです。いまレファレンスについての報告がありましたが、図書館は資料提供サービスから情報提供サービスへとサービスの軸足が移りつつあります。市民の方々・グループの方々の課題が多様化しておりますので、そういったものを情報提供サービスを通じて解決していこうとするサービスのあり方というのが、図書館の今後の方向性になってきています。ですからレファレンスサービスというのは非常に重要性を帯びてきているわけですが、これについてご意見ございましたらお願いします。

舟橋委員 レファレンス件数が相当数ありますが、令和 4 年度にあったレファレンスにどのような項目や傾向があったのか教えていただきたいです。たとえばデータベースに関するもの、図書や情報を求めるもの、また市民活動についての相談など、いろいろなケースが思い浮かびます。そう

いったものの傾向、そしてそれぞれについて解決したものしなかったものの状況も分かればと思います。また、作成したパスファインダーの6件について、それぞれの払い出し数、またそれがホームページにも掲載されていますが、その閲覧件数が分かればと思います。それから「課題」に「職員の負担軽減に対する業務の効率化」ということが指摘されていますが、今日はITの時代であり、その活用によって対処できるものもあると思います。また、図書館のホームページはとても工夫されていて私はよく閲覧するのですが、それぞれのページの閲覧件数は分かりますでしょうか。

山田主幹 レファレンス件数についてはえほん図書館、市民センターの図書室も含む全体です。メールレファレンスにつきましては中央図書館で受けており、12月末現在で15件でした。どんな傾向があるかということですが、やはり小牧の歴史に関することが多いと感じております。実例をひとつ挙げますと、つい最近ありましたのは北里地区にクリサキジョウケイ(栗崎常慶)という古いお医者さんがあって、そこに石碑があると。その石碑を調べている方がいらっしゃって、「北里村誌」に載っている碑文を読みたいということでした。幸いこの資料は国立国会図書館デジタルコレクションにも載っていましたので、その方は遠方の方でしたがお近くの図書館でもご覧になれることをご案内しました。これは上手くいった例でありまして、解決しなかったものも多くあります。たとえば小牧長久手の戦いについて調べている方がいらっしゃって「砦の位置がどこか」ということを聞かれたのですが、現在のどこに当たるのかということが文献に残っておらず未解決となりました。また別の例では「父親が世話になった人の墓参りがしたい」ということで、大阪にお墓があるはずだということだったので大阪府立図書館にも調べていただいたりしたのですが手がかりがほとんど無く、お気持ちに沿えず申し訳なかったのですが、そうした合理的な調査手段がないお尋ねも少なからずあると感じております。「図書館の資料においては分かりませんでした」としかお答えできないことも結構あります。

矢本館長 続きまして、パスファインダーのホームページの閲覧件数と、業務効率化の観点からホームページの情報それぞれの閲覧件数というご質問ですが、パスファインダーにつきましてはホームページにアクセスした件数は分かるのですが、どのパスファインダーにアクセスしたかは分かりません。ホームページのページごとの閲覧件数につきましては集計できますので、別途情報提供させていただきます。閲覧件数の多い・少ないを確認しながらホームページを充実させていきたいと考えております。

家禰会長 レファレンス件数が非常に多いのですが、レファレンスにはいろんなレベル、案内質問のように即答できるもの、探索するもの、時間をかけるもの、ものすごい調査をするものと4段階くらいあるのですが、案内質問の中には資料の所在を聞かれるようなものも件数として挙げられることが多いです。その内訳の統計を取っていますか。

山田主幹 大半が窓口で図書館システムを使って対応している軽易なものです。職員に引き継がれて記録を取っているものは全体の約1%であり、これらが文献調査など時間を要する調査ということになります。

家禰会長 案内質問というのは非常に多く、日本図書館協会の各公立図書館の統計を見ても、だいたい案内質問が多いという現状です。ですから市民一般にレファレンスという業務についての認識度を何らかの形で上げていくということですね。レファレンス・情報提供サービスを図書館としてやっていることをいろんな講座やイベントで PR していますので、今後伸びていこうと思います。

坂廻辺委員 会長のお話にも付随することですが、資料を見ますと出前講座が実績として 4 回あるということで、周知という面でもこの出前講座は大変大きな意味を持っていると思いました。それによってはじめて知るという方も多いでしょうし、これが増えていくと良いなと感じました。

家禰会長 ありがとうございます。ほかにご意見はありますか。

高島委員 今後の取組の方向性として「利用者自らレファレンス事例を検索し、関連本を予約できるシステムを導入し、順次、レファレンス事例の蓄積を進めます」とありますが、ふつうの方であれば有効だと思うのですが、私の父や母のように高齢で SNS も使えないような方が何か調べたいときはやっぱり直接窓口に来てもらうことになるので、職員の負担軽減にはならないと感じます。そのような方に対しては、こういった職員の負担軽減につながるような取組を考えているのか教えていただきたいです。

矢本館長 今後の取組方針としてレファレンス事例を蓄積するシステムを導入するのですが、すべての方にこれを使って自分で調べてもらうということではございません。職員がすべてに対応することは大変なので、自分で調べられる方にはこのようなシステムを用意することです。ですから、高齢の方が窓口に来られましたら今までどおりしっかり対応させていただきます。決してそちらを軽視するということはございませんので、よろしくお願いいたします。

家禰会長 ほかにご意見ございますか。

河村委員 出前講座の 4 回の実績について、対象者・開催場所・参加人数など教えてください。

花里係長 まず、7 月 14 日にこどもに対する読み聞かせに関する出前講座について、市民病院職員のお子さんを預かる竹の子保育所というところから依頼がありまして開催しました。参加人数は途中参加を含めて 20 人ほどです。同じ 7 月に女性の方々でつくる団体からも依頼があって、ワクティブこまきで開催しました。9 月 10 日には難聴・中途失聴者の団体からの依頼により実施し、こちらは中央図書館で開催しました。12 月 14 日には東遊会という東部地区の団体に対してレファレンス関連の出前講座を行いました。会場はこちらの中央図書館イベントスペースで行いました。こちらの人数は約 50 人でした。

河村委員 先ほど他の委員が言われたとおり、出前講座というのは周知に意味があることだと思っています。学校図書館との連携というのはいかがでしょうか。

花里係長 学校図書館は市内 25 校にありまして、子どもの読書活動を推進するため図書館から学校図書館に職員を派遣しております。5 人派遣しております、市内小・中学校に順番に回り、学校内の読書活動を推進するという取組で連携し、支援しております。

河村委員 その中で出前講座を開催するというような計画はあるのでしょうか。

花里係長 出前講座は市民団体から要望をいただくものですので、学校に出前で行くということではなく、それとは別に職員を派遣して子どもの読書活動を支援しております。

河村委員 こども向けのパスファインダーが作成されていますが、これを活用して学校で講座をすることはあるのでしょうか。

花里係長 パスファインダーが今年の実績なのでまだ実績はないのですが、学校支援職員を通してパスファインダーの PR をしたり、キッズライブラ等の発行物を配布したりして子どもの読書活動を支援するという形で連携を図っております。また、出前講座ではないのですが、市内小学校の 2 年生や 3 年生が図書館見学に来られることがありますので、そのときに図書館の使い方や本の説明といった講話もしておりますので、そういった形でこどもたちに少しでも読書に親しみを持ってもらえるように連携を図って支援しています。

家禰会長 ありがとうございます。いま学校図書館を利用した授業が進められようとしているのですが、学校司書の方がいれば、そういう方も授業に役立つようなパスファインダーを作成されると良いと思います。公立図書館が作ったパスファインダーも学校で活用できますので、公立図書館と学校図書館の連携として役立つのではないかと思います。学校図書館を使った授業が組まれると良いかなと…公立図書館とは話が別にはなるのですが、踏み込んでいうとそういうところだと思います。もう一つ、メールレファレンスについて 15 件あるということでした。頻繁にはメールでレファレンスを受けるということはないと思います。だいたい他の公立図書館も同じだと思います。いわゆる「デジタルレファレンス」と我々は位置づけているのですが、なかなか浸透していない。なので、こういうことも図書館でできるということをホームページ等で PR した方が良いと思います。それと、出前講座は申し出があったところについて実施するという事なので、図書館の中でもデータベースの活用方法等を独自に何回か講座という形で開かれると良いと思います。ただ、大学図書館と違って公立図書館ではデータベースを導入していても需要がなかなかなくて、供給はしているが需要が追いついていないという状況です。これから社会人のための情報リテラシー教育というのが重要視されていますので、今後図書館においてデータベースの活用方法も含めて、情報リテラシー教育の多様な方法を模索されてはどうかと思います。レファレンスサービスも同じで、さまざまなイベントやサービスといった PR の方法を考えていかれたらどうかと考えます。ほかにご意見ございますか。

早川委員 メールレファレンスに関して、結構メールだと長文で来そうなのですが、うまくいった点とかいらない点とかありましたら教えていただきたいです。

山田主幹 以前「手元に古文書があるので、その文字を読んでほしい」という依頼がありました。手書きの文字をメールで説明してくださるのですが、うまく対応できなかったということがあります。その方は自分で調べて解決したということでした。一方で最近は資料のデジタル化が進んでいきますので、資料のコピーを送らなくても、国立国会図書館デジタルコレクションや当館の作成する「こまき・デジタルコレクション」にあるものであれば、画像で提供できるということがメールレファレンスの利点だと思います。

家禰会長 レファレンス記録につきましては、市民の方々が検索できたり活用できたりするようなシステムを採られるということです。国立国会図書館も「レファレンス協同データベース」といって全国の事例を集めて公開して検索できるようにしていますので、それも含めて市民の方々がさまざまな事例を自分で検索できるようなシステム、情報資源を共有できるような形があると、市民の皆さんにとって調べものをするときの参考となるとと思います。ほかにございますか。

伊藤副会長 以前頂いた資料にレファレンス担当職員が2名配置されているとあったのですが、今もそれは変わっていないでしょうか。簡易な案内業務は窓口の方がやっていて、先ほどご質問にあったような難しいものをその2名の方が日常的に対応されている。そういった方々の負担軽減を図るためにシステム化の取組がなされていると理解してよろしいでしょうか。

山田主幹 仰るとおり現在も2名の配置がありまして、昨年度・今年度とほとんどその2名がレファレンス業務を行っております。記録を残しておりまして、場合によっては私も手伝いながら最終的に回答をします。できるだけ2週間以内には回答するようにはしているのですがどうしても時間がかかるものがあって、そういうときに過去に受けた事例で再利用できるものをシステムに登録しておけば効率化が図れる。あるいはよく尋ねられるものであれば、システムを見ればある程度は見当が付くということで、そういった事例を蓄積していくことを考えております。

家禰会長 ありがとうございます。パスファインダーについて、現在郷土資料2点、児童4点ということで、それ以外の大人向けのパスファインダーも今後作成されることになると思いますが、できればコンスタントに定期的に追加していけるとどうかと思います。

山田主幹 一般的な分野についても必要だと思います。先ほどからお話が出ておりますレファレンス全体のことですとか、本の排架場所とか、「道案内」ができるものをコンスタントに作成できるように努めていきたいと考えております。

家禰会長 ほかにご意見ございますか。

山田委員 直接議事とは関係ないかもしれませんが、質問させていただきたいと思います。現在市内に多くの高齢者サロンがありまして、地域の高齢者の方が積極的に活動されております。市からも多大なご支援もいただいておりますけれども、そういった方々でなかなか図書館や市民センターに行けない方もいて、職員の負担軽減という中で申し訳ないのですが、そういったサロンへ図

書を運んでいただくようなサービスの予定は今後ありますでしょうか。皆さん非常に意欲も知識もあって、一生懸命やっている方が集まっています。要望としてお願いいたします。

矢本館長 「サロン」というのは固定した場所があって毎日開かれているのでしょうか。

山田委員 いいえ。定期的に近所の集会所や公民館で集まってゲームをしたり音楽を聴いたり体操をしたりしています。コロナが無いころは食事の準備をすることもありました。高齢者の集いの場所です。

矢本館長 図書館で配本サービスを行っておりまして、学校や保育園などの施設に本を配送しています。それを随時開催されるサロンに行くことは難しいかと思いますが、検討したいと思います。

家禰会長 ほかにございますか。

河村委員 パスファインダーについて、とても良い取組だと思っています。今こども向けが4種類あるのですが、こどもは絵とか動くものに興味を示したり集中したりするものと思いますので、職員の方の負担になるかもしれないですけど、これを動画にしてみたらこどもへの良いアクセスになると思います。良いものですので、これを活用していただけたらと思います。あと、レファレンスサービスに対して、利用者からの声はどのようなものがあるのでしょうか。たとえば、「サービスを利用して役に立った」とか、そういう意見があればホームページなどで公開すると、皆さんが「利用してみよう」と思うのではないかと思います。

山田主幹 パスファインダーの活用として動画にするとかビジュアルな形にするという方法もあると思います。課題だと思っています。またレファレンスに対する反応やご意見について、メールで回答をすると感謝の言葉をいただくこともあります。先ほど紹介した事例の方からも丁寧なお礼をいただきました。良いお答えができない場合もございますが、概ね好意的に受け取っていただいているのかなと考えております。

家禰会長 ほかにご意見はございますか。

伊藤副会長 パスファインダーについてお願いなのですが、いま小牧市はSDGsに市を挙げて取り組んでいるということで、学校現場でもこどもたちが学んでいます。このパスファインダーにもSDGsについて目標ごとに本がとても親切に紹介されているのですが、ほとんど中央図書館にしか本が無いのかなと思ひまして、やはり東部のこどもたちは中央図書館より東部図書室、北里の子は北里図書室を使うでしょうから、せっかくパスファインダーに載せていただいたこれらの本がすべての図書室にあると、市内全校のこどもたちがより利用しやすいと思います。いま現在は「この本は中央図書館のここにあるよ」ということがよく分かるのですが、のちのちは「どの図書室にもある」という状態に整備して、このパスファインダーにも改訂を加えていただけるとありがたいと思います。

山田主幹 ご指摘のとおり、全校の子どもたちが利用しやすいように図書室にも資料を排架することや、それに伴ってパスファインダーを改訂していくことも必要だと思いますので、考慮していきたいと思います。

家禰会長 ほかにございますか。

矢本館長 失礼いたします。ただいまいろいろなご意見をいただきまして、点検評価シートの「今後の取組の方向性」については来年度からこういう取組をしたいということではあるのですが、高島委員から「高齢者の方への対応が心配」というご意見や、家禰会長から「PR をしっかり」というご意見がありましたので、前段に「引き続きしっかりやっていく、PR もしっかりやっていく」ということを書いた上で、2 点目として本日の資料にある今後の取組を書かせていただこうと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

家禰会長 ありがとうございます。協議会では様々な意見が出ましたが、事務局の方で検討されて、引き続き実現可能なところに対応していただければと思います。それでは次第 3 について、事務局より報告をお願いいたします。

花里係長 それでは、次第 3 報告事項について、2 点報告をさせていただきます。まず、(1)令和 5 年度小牧市教育委員会基本方針について、お手元の資料 2 をご覧ください。令和 5 年度の教育委員会基本方針につきましては、今後、教育委員会内で決定されていくこととなりますが、現時点において令和 5 年度に図書館が取り組む重点施策の案としては、2 つ予定しております。1 つ目は、図書館におけるボランティア活動をさらに活発化させていくために、「子ども読書活動の推進に繋がるおはなし会や催しが実施できる図書館ボランティアを養成する講座を実施し、ボランティアの増員を図る」ことを考えております。2 つ目は、今年度に引き続き、令和 5 年度も、レファレンスサービスを充実させてまいります。具体的な取り組み内容としましては、「利用者が自らレファレンス事例を検索し、関連本を予約できるシステムを導入し、順次、レファレンス事例の蓄積を進めます」ということを令和 5 年度の重点施策の内容としたいと考えております。この重点施策につきましては、教育委員会で決定後、次回の図書館協議会で報告させていただくとともに、また令和 5 年度末には実施結果についてのご意見をいただくこととなりますのでよろしくおねがいします。続きまして、報告事項の(2)令和 4 年度第 1 回図書館協議会における提案事項についてでございます。資料 3 をご覧ください。令和 4 年度第 1 回図書館協議会におきまして図書館運営についてご意見をうかがいましたが、その際、委員よりご提案いただいた 5 つの内容に対する図書館の対応についてでございます。順に報告させていただきます。まず 1 点目は、「外国籍の方へのサービスについて、市内にどういった母国語の方がおられるのか統計データを把握した上で、その言語の資料を揃えていただいた方が良い」とのご提案でございますが、本市の外国人市民の国籍別構成を調査した結果、特にここ数年ベトナム語圏、フィリピン語圏(タガログ語)の外国籍の方が増加傾向にありましたので、令和 5 年度は、洋書購入点数のベトナム語・タガログ語の割合を増やすなど外国人市民の国籍別構成に配慮した図書購入に努めることといたしました。また、小牧市国際交流協会との連携事業として外国人向け図書館ツアーの開催の検討も進めたいと考えています。2 点目は、「読書関連のイベン

トとしてビブリオバトルや少人数で集まってワークショップ形式で自分のおすすめの本を持ち寄ったりしていろんな話をするワークショップを開催してはどうか」とのご提案でございますが、本年度は、市民団体との協働で中高生を対象に「教えて！推し本」というイベントを開催しました。お手元の資料3の別紙をご覧ください。これは、中高生がお気に入りの本を持ち寄り、その魅力を互いにプレゼンしあうブックトークイベントです。現在も当館2階に、その時のお薦め本の紹介コーナーを設置しておりますので、お時間がありましたらご覧ください。令和5年度については、関連する市民団体と協働し、趣向を凝らした中高生向けのイベントを開催したいと考えております。3点目は、「中央図書館なら中央図書館、東部なら東部という固定ではなく、新刊本を巡回させてはどうか」とのご提案でございますが、検討の結果、新刊本については予約がかかることが多く、そうした中で巡回を行う場合、図書の管理及び貸出事務が煩雑となることから、現状での対応は難しいと判断しました。そのため、令和5年度以降も各館・室でバランスよく新刊図書を購入していくとともに、どの館でも、別の館の本を予約して取り寄せることができますので、予約のPRを行っていきたいと考えています。4点目は、「各図書室の整備・拡充について」のご提案でございますが、各図書室の施設面を物理的に拡大することは難しいですが、設備面やソフト面でできることがあれば充実させていきたいと考えています。今年度の取組としては、ソフト面として、中央図書館で好評だった図書コーナー展示本を巡回展示コーナーとして設置しました。また、設備面として、中央図書館と同様に各図書室に「タブレット端末」「CD・DVD視聴機」を配置していきたいと考えています。5点目は、「図書館での映画作成」や「ウィキペディアタウン」についてのご提案でございますが、現状の職員体制では、職員主体で取り組むことが困難でありますので、将来的に市民活動団体との連携など機会があれば、その開催の可能性を探っていきたいと考えています。なお、令和5年度は子ども向けのプログラミング講座を開催する予定です。また、前回子どもの読書活動に関するご意見がありましたので、本日図書館の発行物をお配りしました。1点目の「えほんライブラ」はえほん図書館の職員が作成して全館で配布しているもので、乳幼児向けのおすすめ本を掲載したものです。続いて「キッズライブラ」は、中央図書館の職員が作成して全館で配っているもので、裏面に低学年・中学年・高学年と学年に応じておすすめの本を紹介しているものです。次に「ティーンズライブラ」は、小・中学生向けに中央図書館の職員が作成して全館で配布しているものです。最後に「春を読む読む」と書かれたものは3月1日から配布する予定のものですが、こちらは職場体験として図書館に来られた中学生の方が作成したもので、紙面のコメントは中学生の生の声を掲載しています。以上で次第3の報告とさせていただきます。

家禰会長 ありがとうございました。ただいま事務局よりありました報告について、令和5年度の教育委員会基本方針について2点挙げていただきました。協議会で出た提案事項についても現在実施できているものもありますし、もちろん職員体制もありますので様々な実現可能なところでいろいろ検討いただいて実施されていると思います。なかなかできない部分も意見として出しておりますので、いずれかの機会できそうな体制が整ったときにもう一度ご検討いただければと考えております。それから、来年度ボランティアの増員を図るということで、特に子どもの読書活動の推進に関する導入を図っていくということですね。こちらは現在既存のボランティアのグループと連携をしつつ、増員を図っていただければと考えております。さらに、引き続きレファレンスサービスの充実ということも挙げられております。このあたりについて何かご意見ございますでしょうか。

舟橋委員 基本目標 2「図書館ボランティアの育成」という項目がありますが、このことについてお聞きしたいと思います。これはどういう意図やイメージを描いての育成を目指しているのでしょうか。「おはなしの森」は 40 年以上の長い歴史を持っているボランティア団体です。ほかに「もこもこ」とかそういった団体もあって、それぞれが独自に会員を集めたりして積極的に活動していると思います。図書館としては、さらに別の役割を持ったボランティア団体を立ち上げたいということなのか、それとも既にある団体の会員増員に手を貸すということなのか、または図書館業務の補完のために新たなボランティアが必要なのか、というようなイメージがよく分からないのですが、説明いただけると嬉しいです。

花里係長 育成していくボランティアのイメージということですが、双方兼ねております。現在えほん図書館や東部図書室、中央図書館で活動しているグループが 8 団体あるのですが、少しずつボランティアが減少しているということが当館だけではなく他の図書館でもありますので、その増員を図る目的もございます。また、別の取組につきまして、中央図書館とえほん図書館で連携を図りながら双方で活動できるボランティアさんを養成していきたいとも考えております。えほん図書館はえほんに特化した図書館ですので、乳幼児を連れた親子の方が非常に多くいらっしゃいます。その中でえほん図書館では 2 団体のボランティアが活動しておられますので、乳幼児向けのおはなし会ができるように育成していきたいと考えております。また中央図書館のイベントスペースでボランティアさんの活動を知ってもらえるような、広く参加ができる読み聞かせに加えてパネルシアターなどのお楽しみ要素のあるイベントも開催していけるようになると良いと考えておりまして、手遊びやわらべうたも用いながらパネルシアターやエプロンシアターなどが開催できるボランティアを育成していきたいと考えております。

舟橋委員 つまり、「育成」ということで、市中で既に活動しているボランティアを呼んでくるとか募集するということではなくて、自前でボランティアを育てる、養成するというイメージなんですね。

花里係長 育てて、増員を図っていききたい。また既存のグループとも連携を図りながら、今のグループのスキルアップもステップアップ講座として別に開催していきたいと考えております。

家禰会長 公立図書館におきましては読み聞かせ等のボランティア養成講座を既存のボランティアさんと一緒になって実施しているところが多いと思います。おそらく応募が多いと思うんですね、やりたいという方がおられると思いますので、そういう機会を設けていただくというのは重要だと思いますので、よろしくお願いいたします。

野田委員 ボランティア養成講座については毎年のように開催されていたんですが、講座に出席される方も減っていると聞いていますし、またその中から実際にボランティアになる方もずいぶん減ったというのが活動している身として感じているところです。これからどのような工夫をしてボランティアを増やしていくのかをまず聞きたいのと、ボランティアの交流会と代表者会というのが年 1 回行われていたのですが、コロナ禍になってから全く行われていなくて、別のボランティア団

体と交流を図るかなり貴重な機会だったのですが、それはまた復活しますでしょうか。

花里係長 ボランティアに関してどんな工夫をして増やしていくかというご質問につきましては、ボランティアを新たに養成する講座とは別に、既存のボランティアのスキルアップを目的としたステップアップ講座を来年度2回ほど開催したいと考えております。今年度につきましては、ステップアップ講座を2回開催いたしました。内容としましては事前にボランティアの皆さんにアンケートを取りまして、その中で「昔話に関してスキルアップを図りたい」という声が多かったので、「昔話のすすめ」というテーマで第1回を開催しました。第2回は先日開催したところですが、自分たちの強みをどのように参加者にPRして呼び込むかという切り口で開催しました。来年度も皆さんの声を聴きながらテーマを決めていきたいと考えておりまして、図書館としましてはボランティア活動室の提供やスキルアップを図る講座を継続して開催することで、既存のボランティアの支援をしていきたいと思っております。2点目の「交流会・代表者会は復活するのか」ということですが、新旧代表者会につきましては旧図書館で実施したことがありまして、新図書館を建設するにあたってボランティア活動するためにどのような部屋が必要か、といったことを伺うために開催したものです。こちらは代表者の方が集まって話し合う議題があった際に開催されるものですので、そのような議題が今後ありましたら開催したいと考えております。交流会につきましては、図書館としても開催したかったところですが、コロナの見通しが立たない状態でしたので大人数で集まって交流するということ避けてきた面がございます。行事等をコロナ前のように戻していく方向もございますので、来年度以降については、状況を鑑みながら交流会が開催できると良いと考えております。

家禰会長 ほかにご意見ございますでしょうか。

長江委員 「えほんライブラ」の裏面に絵本を紹介いただいていて、読んでみたいという気持ちにもなりますし、季節を感じられる本を選んでくださったと思います。ただ、乳幼児も0歳から就学前まで幅が広いので、できたら3歳未満児用と幼児向けというように分けていただくとお母さんたちも分かりやすいと思います。読み聞かせ会が0歳から2〜3歳のお子さん向けが多いようなので、児童館や児童センターだけでなく、図書館を小さなお子さん連れの親子に利用していただくためにも、小さなお子さん向けの本も具体的に紹介していただけるとさらに活用されるのではないかと思います。

家禰会長 そのほかご意見ございますでしょうか。

河村委員 「教えて推し本！」というイベントの、参加者の感想とか意見をお聞きしたいと思います。

赤尾主任 「教えて推し本！」は昨年度と今年度の2回開催しておりまして、印象的だった感想をお答えしたいと思います。まず、「本が好きだということを今まで人に言ったことが無かったのだけど、この会に出て、同じものを好きな者同士が集まって話ができてとても嬉しかった」という男

の子からの意見がありました。「学校で本好きの友達がいなかったので、ここで友達ができ嬉しかった」とも言っていて、私もとても嬉しかったです。そのほか、違う学校の子と LINE を交換して、「また一緒に図書館に来ようね」と約束をしたという声もありました。また、「すごく楽しかったので、今度はマンガ版をやってほしい」といった意見、「ジャンルを広げてやってほしい、いろいろなバリエーションでやってほしい」というような声もありました。

家禰会長 特にティーンズ、中高生にも本好きの方もいますので、特に参加型のトークイベントでお話をしたり、おすすめの本に自分たちのコメントを付けて紹介すること。そしてそれを他の人たちが見て、「中高生はどんな本を選ぶんだろう」とか、「どんな感想を持っているんだろう」という興味もありますので、非常に良い取組だと思いますので、今後も参加型のイベントを進めていただければと思います。ほかにご意見ございますか。

野田委員 イベントスペースでパネルシアターなどの通常のおはなし会より少し工夫した会ができるグループを作るというお話がありましたが、現在図書館に所属しているグループがイベントスペースでイベントを年に1回から2回やっています。どのグループもそうだと思うのですが、イベントスペースを押さえるのに結構苦労しているという印象がありまして、私たちのグループも来年度2回行うんですが、第1希望から第4希望まで日程を出して、第4希望になったんですね。それくらいイベントスペースを押さえるのが大変な中で、ここで活動するグループを作ることができるのかな、どういうふうに日程を調整するのかなと。また、既におはなしポケットさんがそのような形(通常のおはなし会よりも工夫した形)で活動されていると思うんですが、それとは別にグループを作るということでしょうか。

花里係長 中央図書館は開館からずっと来館者数が多く、中高生のテスト期間ともなるとイベントスペースがいっぱいになって、臨時席を出して対応しています。なかなかご希望の日程が押さえられず心苦しいところではありますが、できる限り希望が通る形でバランスを取りながら対応していきたいと考えております。ボランティア育成につきましては、えほん図書館と中央図書館の双方で活動できるようなグループというふうに考えており、中央図書館に特化したボランティア養成とは異なります。おはなしポケットさんが年に数回催しを実施していますが人数が少し少ないので、もう少し多いと大々的にできるのではないかと思いますので、新しくボランティアを養成して増員するとともに、既存のボランティアグループに入って活動してみたいという方も含めて養成していきたいと考えております。

舟橋委員 野田委員の発言を聞いて気になったのですが、中央図書館のイベントスペースをそのような方々が活動場所として使うことに苦労しているとのこと。旧図書館を思い出せば、多目的の部屋があってそのような活動にけっこう気楽に使うことができました。またプロジェクターとか関連機材の貸し出しもしていて、地域の活動で使わせてもらったということもありました。中央図書館になって、利用者が増えたという意味では嬉しい悲鳴であるかもしれませんが、このイベントスペースを使うのに苦労しているというのは意外でした。こういう活動に使えるスペースがこの建物内にほかにあれば良いんですけど、近辺の施設に図書館の行事として使える部屋やスペースはあり

ますでしょうか。

矢本館長 まずこのイベントスペースの予約が取りづらいというのは、庁内関係各課やこまき市民文化財団などからの申込みが非常に多いということによります。図書館としても多様なイベントをしていきたいということで、まずはそのようなイベントを受け入れているという状況です。実際に取り合いがあるというようなことでして、ボランティアの方々にはご迷惑をおかけしているところですが、ただ、庁内各課もなかなか希望の日程が取れない状況の中、なんとか調整をしております。また、テスト期間中は生徒さんに勉強の場を提供したいという気持ちもありますのでイベントを少し控えていただくこともあります。イベントを優先することもあります。このあたりで別にイベントをする場所としては、ラピオの多目的室等でえほん図書館のイベントをすることもございます。ただやはり、イベントスペースの方がたまたま図書館に来た方にもイベントに立ち寄ってもらえるということで人気があり混みあっているということです。嬉しい悲鳴でもあります。なんとか調整をしていきたいと考えております。

家禰会長 ほかにご意見ございますでしょうか。それでは意見が出尽くしたようですので、以上といたします。これにて本日の議事はすべて終了いたしました。いろんな意見、多様な意見を出していただきありがとうございました。事務局の方でご検討いただきまして、来年度の事業についてもいろいろな課題が出てくると思いますので、次の協議会でこういった取組をされたかというのを教えていただき、また皆さんのご意見を伺えればと思っておりますので、よろしくお願いいたします。それでは進行を事務局にお返しいたします。

■閉会

赤尾主任 ありがとうございました。2点事務連絡を申し上げます。1点目、本日の会議録を事務局で作成いたします。後日、皆様に内容確認のメールをお送りいたしますので、ご協力をお願いいたします。2点目、今年度の図書館協議会は今回で終了となりますが、委員の任期は2年ですので、来年度も引き続きよろしくお願いいたします。なお、令和5年度第1回図書館協議会の開催時期は、令和5年7月頃を予定しております。それではこれをもちまして、令和4年度第2回小牧市立図書館協議会を閉会いたします。ありがとうございました。